

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、自分らしい生き方を実現するための力を養い、社会の一員として生きがいを持ち、積極的に社会に参画する意欲と態度を育成することをめざした教育活動を行う。 そのために以下の点を重点目標として学校経営に取り組む。

1. 生徒一人ひとりが人権を大切にされ、安全・安心に学習活動に専念できる学校
2. 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導および支援を提供できる学校
3. 中高一貫のキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの豊かな進路実現を支援できる学校
4. 地域の諸機関と連携しながら、特別支援教育のセンター的機能を発揮する学校

2 中期的目標

1. 生徒一人ひとりが人権を大切にされ、安全・安心に学習活動に専念できる学校

(1) 生徒の人権を大切に教育を推進する。

* H27年度は3回、人権研修を行う。

(2) 大災害時を想定し、学校内外での対応を検討する。

ア P T Aとも連携し、必要な備蓄品の検討や購入システムの確立を図る。

*H27年度は学校として必要な備蓄品の整理・検討を行うとともに、大災害に対する対応マニュアルの検討に着手する。

在校時だけでなく、さまざまな場面を想定した(校外学習時、登下校時)対応を考案する。

*H28年度は対応マニュアルを完成させ、内容を精査していく。

イ 災害時備蓄品の充実を図る。

*H27年度は生徒個々に必要な備蓄品(薬剤・嗜好品・下着等)に関して、量や保管方法などを検討し、早期の実施をめざす。

ウ 災害時を想定し、地域との連携を深める。

*H27年度は地域の自治会と十分に連絡・調整しながら、災害時の近隣商業施設との連携・協力について検討・依頼する。

エ 個人情報を守る管理体制を徹底する。

*教職員の情報セキュリティ意識を向上させるために、定期的な注意喚起だけでなく、研修を実施する。

*生徒の画像を校外へ持ち出さないための環境づくりを行う。

2. 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導及び支援を提供できる学校

(1) 教員の授業力の向上及び知的障がい教育における専門性の向上を図る。

ア 校内での研究授業を積極的に実施し、テーマを決めた充実した研究協議を行い、授業力の向上を図る。

*H27年度は、2～3年目の教諭はテーマを絞り込んで複数名の研究授業と充実した研究協議を行う。

また、ベテラン教職員に関しては、授業を記録し、全教職員で研究協議を行う。

*H28年度も同様に実施し、可能であれば、外部からの助言者を招聘する。

イ 自立活動に関する校内研修を実施し、専門性の向上に努める。

*H27年度は、支援・研究部を中心に専門的な校内研修を行う(PT, OT, ST等を活用した研修等を10回程度実施する。)

*『自立活動室(別指導場所及び教材保管場所を兼ねる)』の整備を検討・実施する。

*H28年度も同様に実施し、「自立活動」の指導の充実も図る。

ウ 専門性の向上につながる研修に積極的に参加させる。

*H27・28年度は中学部・高等部それぞれ可能な範囲で、校長マネジメント経費を活用し、専門性の向上につながる研修に参加させ、伝達講習を実施する。

(2) 生徒一人ひとりのニーズに応じた指導、支援を行う。

ア 個に応じた指導・支援の充実を図る。

3. 中高一貫のキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの豊かな進路実現を支援できる学校

(1) 生徒の卒業後の自立と社会参加を見据え、生徒の持つ可能性を最大限に伸ばすように努める。

ア 高等部卒業後の進路に向けて、実習先を確保し、高等部全学年での実習(体験実習・現場実習)を充実・定着させる。

*H27年度は生徒数に合わせた実習先開拓のための企業訪問を積極的に行い、実習時の教員の巡回指導も充実させる。

*H28年度は生徒数増が予想されるため、状況を見極めて企業訪問を行い、巡回指導も充実させる。

イ 卒業後すぐに就職することをめざす生徒にはクリーンコース(職業コース)を中心に就労に向けた指導を行い、就職希望者全員の就職をめざす。

*H27年度は通学区域の変更に伴う生徒数減を視野に入れながら、少人数での授業展開を充実させる。

*H27年度、H28年度と、校内での作業・実習を充実させていく。

*H28年度以降も高等部各学年の生徒数を勘案し、クリーンコース(職業コース)を展開する。

ウ キャリア教育を柱とした中学部・高等部へとつながる教育課程を策定する。

*中高一貫のキャリア教育の視点を取り入れた教育課程作成のための検討に着手する。H27年度は、準備段階として、特別支援学校における「キャリア教育」に関する研究会や、他校で実施されている「キャリア教育」に関する授業の現場に教職員を派遣する。

*H28年度は、「キャリア教育」に関する研究授業を実施し、教育課程を完成させる。

エ 中高連携による、中学部での「キャリア教育」の充実とともに、高等部の生徒への社会参加へ向けての意識を向上させる。

*H27年度は中学部3年生へのクリーンコースを含む職業授業への見学(体験)、および高等部主催の講演会(卒業生の話)ビデオを活用しての進路学習。

4. 地域の諸機関と連携しながら、特別支援教育のセンター的機能を発揮する学校

(1) 関係機関と連携し、校内では家庭及び学校での生徒の安定した生活の確立に努め、校外では地域支援の充実に努める。

ア コーディネーター及び支援部を中心に据え、生徒の課題解決へ向け、チームでスピーディーにタイムリーに関わることができるよう、校内システムを充実させる。

*H27年度は支援・研究部のメンバーが中心となり、チームとして支援の必要なケースにコーディネーターと共に取り組む。

*H28年度も同様。

イ 北河内地域の支援学校の一つとして、他の支援学校と連携・協力しながら、地域支援を充実させる。

*H27年度はH26年度実績をもとに地域支援の充実に図り、巡回相談や講師派遣の依頼にはすべて応じることができるよう、校内体制を再構築する。市の各種協議会や事例検討会等にはコーディネーターと共に経験の少ない教諭も出席・協力する。

*H27年度は、H28年度から活用できるように『地域支援室』の整備を検討し、通学区域の市教育委員会と連携・協力し、研修会を実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○生徒・保護者・教職員を対象に実施 回収率は生徒 71%、保護者 78%、教職員 91%</p> <p>【教育活動に関する結果と分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校・授業が楽しい」と回答している生徒・保護者が 80%を超えており、概ね生徒にとって楽しい学校・クラス運営が行われている。 ・「学校行事はよく工夫されている」についての保護者回答では、85%の高評価を得ている。 ・「学校は行事や進路等の必要な情報を知らせている」との保護者回答も 86%の高評価を得ている。 ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・評価についても保護者からは 90%近い高評価を得ている。 ・「教員の専門性」については、教職員はほぼ 100%の評価を得ているが、保護者からは 80%の評価と、20%のギャップがある。保護者の評価は授業アンケート 1 回目みの評価が反映しており、2 回目のアンケートでは中高ともに高評価がかなり増しているため、20%のギャップは埋められる。 ・「研究授業を元にした有意義な研究協議」については、約 30%の教職員が低評価の回答をしており、多くの参加者による研究協議の実施が必要である。 ・「キャリア教育の推進」については、約 10%の保護者が低評価、27%の保護者がわからない、と回答しており、今後、情報発信を中心とする理解啓発をしなければならない。 <p>【学校運営・経営に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者の悩みや相談に対する学校の対応、災害・緊急時の対応」については、保護者は 80%以上の高評価をしている。 ・「学習環境面としての学校の施設・設備」については、例年と同じく、保護者は 45%以上の低評価をしており、今後も継続的な改善が必要である。 ・「学校は福祉・医療等と連携している」については、約 30%の保護者がわからない、と回答しており、情報発信等の周知が必要である。 ・「学校のホームページの情報」については、保護者は 44%しか見ていない上、閲覧者の 30%以上が低評価であるので、HP の刷新と周知が必要である。 ・「校内での業務等」について、30%以上の教職員が課題ありと考えているが、90%近くの教職員がやりがいを感じながら仕事全般に取り組んでいるので、本校は業務に集中して取り組める環境にある。 <p>【課題から見える改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の特別支援教育における専門性の向上のため、研究協議を充実させる。 ・OT, PT, ST 等福祉医療人再活用事業を保護者に周知し、保護者と連携しながら事業を進めていく。 ・学習環境（施設設備面）を継続的に改善していく。 ・キャリア教育を推進するとともに、保護者に対して四條畷校の取組みを発信する。 ・ホームページの刷新を含め、学校内外へ積極的に情報発信する。 	<p>第 1 回（6 / 2 2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> ・各項目について、計画通り進めていただきたい。 ○卒業後のフォロー及び進路先開拓について <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校を卒業し、施設に入所してくる利用者の中には生活面での課題を抱えているケースが多い。センター的機能としてコーディネーターが地域巡回を行っているが、施設の利用者対象に話をしづらいことはできないか。 ・（福祉・就労・職業訓練施設へ）先生が見学に来てくれるだけで利用者は喜ぶ。アフターフォローを大事にしてほしい。 ○教員の専門性について <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと接している時の声かけも大切にしてほしい。「今から○○するね…」など、やはり一声かけることが大切であり、専門性も重要だが、『人として』の面も上げてほしい。 ○保護者の授業参観等、来校時について <ul style="list-style-type: none"> ・保護者側も多様化している。服装やルールを守らなかつたり、子どもに悪影響が及ぶ際は、保護者に対しても厳しくいってほしい。 <p>第 2 回（1 2 / 1 0）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全安心な学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館に備蓄品を補充することは難しい。府の備蓄を各学校に分ける取組みが進められている。ただ、安全に保管できる場所を考えると、場所の設定が難しい現状もある。 ○授業力及び専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・授業を参観したが、子どもに合わせた指導をいただいていることに感謝する。 ・初任や経験の浅い教員の実践力の向上と合わせ、クラスの担任全員がすべての子どもを理解し、指導にあたるように心がけてほしい。 ○「授業アンケート」について <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果には、本音と期待が込められているので、授業力向上に努めてほしい。 ・保護者との信頼関係が深まることで子どもはさらに成長すると感じているので、引き続き保護者との丁寧な関係づくりを期待する。 <p>第 3 回（2 / 25）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 27 年度学校経営計画の評価について <ul style="list-style-type: none"> ・白票でも提出してもらい回収率を上げてほしい。 ・体力作り等、学校のみでの取組みに感謝したい。 ・「個別の教育支援計画」について、進路先との引継ぎを確実に実行してほしい。 ○平成 28 年度学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> ・…直接かかわる意見はなかった。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人ひとりが人権を大切にされ、安全安心に学習活動に専念できる学校	<p>(1) 生徒の人権を大切にす る教育</p> <p>(2) 大災害を想定し、学校 内外での対応を検討</p> <p>ア・対応マニュアル</p> <p>イ・備蓄品</p> <p>ウ・地域と連携</p> <p>エ・個人情報管理体制の徹底</p>	<p>(1)</p> <p>ア・年に 3 回、人権研修を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・大災害時のさまざまな場面（校外学習・登下校時等）を想定した防災マニュアルの検討に着手する。</p> <p>イ・学校備蓄品とは別に、生徒個々に必要な備蓄品（薬剤・嗜好品・下着等）に関して検討する。</p> <p>ウ・近隣にオープン予定の商業施設と連携・協力する。</p> <p>エ・個人情報セキュリティ意識の向上のために、定期的な注意喚起と研修を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・研修後、教職員の人権意識が向上したか。（学校教育自己診断肯定度 8 0 %）</p> <p>(2)</p> <p>ア・1 学期中に対応マニュアルの検討・作成チームを立ち上げ、年度内にマニュアルを完成させたか。</p> <p>イ・生徒個々に必要な備蓄品の預かり方を確定し、1 学期中に実施できたか。</p> <p>ウ・地域自治会と連携し、近隣商業施設と関係づくりができたか。（2 学期中）</p> <p>エ・教職員に対して個人情報セキュリティを遵守する意識向上を図れたか（学校教育自己診断肯定度 90%）。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・7 月 1 回目、12 月 2 回目、3 回目 1 月に実施。保護者向け学校学校教育自己診断で 80%が肯定的。教職員向けでは 92%が肯定的。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア・危機管理ワーキング P T を立ち上げ、現在マニュアル作りの前段階まで進んだ。(○)</p> <p>イ・1 学期から預かり品を 3 ～ 4 割、備蓄が進行中。(○)</p> <p>ウ・大型商業施設が開店し、担当者の顔合わせは 1 月 26 日に実施。(○)</p> <p>エ・1 学期に個人情報管理に関する教職員研修を実施。保護者向け学校教育自己診断では 80%が肯定的。教職員向け:90%が肯定的。(◎)</p>
2 生徒一人ひとりの教育的	<p>(1) 教員の授業力の 向上及び知的障がい教育 における専門性の向上</p> <p>ア・研究授業・研究協議の充 実</p> <p>イ・校内研修の実施</p> <p>ウ・研究機関等が実施する研 修受講</p> <p>(2) 生徒の実態に応 じた指導・支援</p>	<p>(1)</p> <p>ア・2 ～ 3 年目等の教諭はキャリア教育の視点を取り入れた授業を実施する。複数名が研究授業を行い、研究協議を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富な教職員の授業を記録し、研究協議を全教職員で行う。 <p>イ・自立活動の専門性向上のための校内研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動室の設置を検討する。 <p>ウ・専門性の向上に直結する内容の研修を受講し、校内にフィードバックする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒の障がいや特性に応じた教育機器・教育方法を使って授業を行う。（言語・視覚支援）</p>	<p>(1)</p> <p>ア・キャリア教育の視点からの授業ができたか。（学校教育自己診断肯定度 8 0 %）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業記録をもとに、有意義な研究協議ができたか。（学校教育自己診断肯定度 80%） <p>イ・PT, OT, ST 等を効果的に活用できたか。（学校教育自己診断肯定度 80%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動室について、1 学期中に校内で意思統一し、設置できたか。 <p>ウ・専門性の高い研修へ教員を派遣し、受講した内容を校内にフィードバックできたか。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒の障がいや特性に応じた授業を実施できたか。（学校教育自己診断肯定度 80%）</p>	<p>(1)</p> <p>ア・キャリア教育ワーキング P T を立ち上げ、四條畷校版キャリア発達のキーワードを整理。研究授業は 2 回実施済。教職員向け学校教育自己診断では 57%が肯定的（研究授業実施前にアンケートを実施した影響あり）。(○)</p> <p>イ・PT, PT, ST, 臨床心理士と、各 6 時間、各年 2 回の活用を実施。教員向け学校教育自己診断では 60%肯定。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 学期に設置した。(○) <p>ウ・自閉症理解等の特別支援教育、ソーシャルスキルの研修へ派遣し、3 学期にはキャリア教育の公開授業に 3 名派遣。何れも伝達講習でフィードバック。(○)</p> <p>(2) ア・大型 TV を使用した ICT 授業を実施、保健室では AAC 機器を生徒が使用し、生徒の理解が促進した。保護者向け学校教育自己診断では 80%の肯定度。(○)</p>

<p>3 社会的自立への支援の充実</p>	<p>(1) 生徒の卒業後の自立を見据え、生徒の持つ可能性を最大限に伸ばす。 ア・実習の充実 イ・クリーンコースの充実 ウ・キャリア教育を柱とした教育課程の策定 エ・中高連携のキャリア教育の充実と、高等部生徒の社会参加へ向けての意識の向上</p>	<p>(1) ア・進路部を中心とする高等部教員が生徒が実習に至るまでの様々な手続きや、実習先での様々なノウハウを学ぶことで実習を充実させ、また、実習先の開拓を行う。 イ・少人数でのクリーンコースの授業展開を工夫し、授業内容を充実させ、実習の更なる充実を図る。 ・就職を希望する高等部3年生の生徒への指導を充実させ、就職させる。 ウ・特別支援学校が実施するキャリア教育に関する公開研究会に参加し、中高一貫のキャリア教育に関する教育課程の俯瞰図を作成する。 エ・中学部3年生のクリーンコースを含む職業の授業を見学(体験)、および高等部主催の講演会(卒業生の話)ビデオを活用しての進路学習の実施。 ・校外の実習体験や講演会等を通して、高等部生徒の社会参加へ向けての意識を向上させる。(高等部への進学、高等部卒業後を見据えたキャリア教育を実施している。)</p>	<p>(1) ア・高等部教員が積極的に実習先に出向き、その考え方や状況を把握し、実習先での生徒の課題や学校としての課題等に気づくことができたか。(全巡回指導40回以上) また、実習先の開拓を行えたか。(開拓訪問40ヶ所以上) イ・少人数でのクリーンコースの指導方法・指導内容等に新たな工夫が見られ、実習は充実したか。(学校教育自己診断肯定度80%) ・高等部3年生就職希望者全員が就職できたか(100%)。 ウ・成果を校内に伝達講習によりフィードバックするとともに、教育課程の俯瞰図を完成させたか。 エ・中学部3年生にクリーンコース等の職業授業を見学(体験)させ、高等部の進路学習をさせたか。 ・高等部生徒の社会参加への意識を向上させたか。高等部への進学、高等部卒業後のキャリア教育を充実させたか。(学校教育自己診断肯定度80%)</p>	<p>(1) ア・実習先開拓は47カ所実施。うち、新規開拓は8社実施。巡回フォローアップ指導・アフターケア、58カ所実施。企業就労受入企業、9社。(○) イ・本年度のクリーンコース所属生徒は3名だが、同コース担当教員が指導方法を工夫しながら活動中で、人数増の次年度へ向け準備を進行中。学校教育自己診断のアンケートでは担当の6名のみの評価(67%が肯定:△) ・現在1名内定。(○) ウ・3学期に公開研究会に派遣。 キャリア教育PTは首席のリードの元、活発な意見交換の結果、キャリア教育の骨子となる「育みたい力」を集約し、4~5に整理できた。(○) エ・1学期に実施。3学期は2/18実施。 ・卒業生5名が10月に体験報告を講演した。ビジネスマナー講座は3回実施済み。保護者向け学校教育自己診断では、キャリア教育では56%が肯定的評価。(△)なお、進路等の情報発信では86%が肯定的評価。(○)</p>
<p>4 校内支援・校外支援の充実</p>	<p>(1) 校内では家庭及び学校での生徒の安定した生活の確立、校外では地域支援の充実 ア・校内支援の充実 イ・校外支援の充実(センター的機能)</p>	<p>(1) ア・家庭への支援や生活指導的な支援等の必要な生徒に対して、校内のチームで取り組み、支援・研究部メンバーがコーディネーターと共に中心メンバーとなる。 ・校内ケース会議の事例を基に、事例検討会を実施し、成功例・失敗例を具体的に検討する。 イ・地域からの巡回相談や講師派遣の依頼には、すべて応じる。 ・各市の各種協議会や事例検討会等にはコーディネーターと共に経験の少ない教諭も出席・協力する。 ・地域支援室の設置を検討する(H28年度より設置)。 ・通学区の市と連携・協力し、研修会を行う。</p>	<p>(1) ア・校内でチームとしての支援が必要なケースに、支援部メンバーがコーディネーターのアドバイスを受けながら、ケース会議等の中心となり、進言や提案が行えたか。 ・事例を通し、生徒や家庭に対するチームとしてのアプローチのノウハウ等を学ぶことができたか(4ケース程度)。 イ・地域からの巡回相談や講師派遣の依頼に、すべて応じたか。 ・経験の少ない教諭が地域の実情を知り、自分に必要な専門性を明らかにできたか(のべ10回以上)。 ・地域支援室について、校内で意思統一し、設置の方向で検討できたか。 ・市との連携・協力のもと、研修会を実施できたか(若しくは検討が進んだか)。</p>	<p>(1) ア・「ケース会議」は、8回実施。3月末までに10件の予定。(○) ・校内事例検討会は4件実施済。 イ・地域巡回は約50件、講師派遣は9件実施。電話相談1件。地域での、事例検討会2件、会議30回以上。四條畷市の教材教具発表会の講師として12月に参加発表。(○) ・養護教諭初任者を2回、経験の少ない教職員を5回、それぞれコーディネーターと地域巡回させた。(○) ・教室を決定し、28年4月開設に向け、備品等を搬入し準備作業を行っている。(○) ・公開校内研修会:7月に実施。(○)</p>